

Intervention Study

第14回日本理学療法
教育学会学術大会

生成AIを用いた 新人セラピスト教育支援 の効果検証

海津陽一¹⁾, 岩本紘樹¹⁾

1) 日高リハビリテーション病院

2026年1月10日から11日にかけて、帝京大学池袋キャンパスにて開催された第14回日本理学療法教育学会学術大会において、日高リハビリテーション病院リハビリテーションセンターの海津陽一（理学療法士）が学会発表を行いました。

本学会は、理学療法教育に関する実践および研究成果を共有し、教育の質向上を目的として、全国の理学療法士が一堂に会する学術集会です。近年は、教育現場へのデジタル技術の導入も重要なテーマとなっており、本大会においても活発な議論が行われました。

本発表では、「生成AIを用いた新人セラピスト教育支援の効果検証」をテーマに、ChatGPTを活用して構築した教育支援ツールを、新人理学療法士および作業療法士に対して1か月間導入し、その効果を検討しました。

具体的には、EBP（根拠に基づく実践）能力、生成 AI リテラシー、自己効力感に与える影響について評価を行いました。

その結果、介入後には EBP の実践、態度、知識・技能の各側面が全体として向上し、あわせて生成 AI に対する理解や活用への自信が高まる傾向が認められました。これらの結果から、生成 AI を活用した教育支援が、新人セラピストの学習を多面的に支援し得る可能性が示唆されました。

質疑応答では、教育介入の実施時期、ハルシネーションへの対策、継続利用の状況などについて質問が寄せられました。介入は新人が臨床に一定程度適応した時期に実施したこと、使用した生成 AI は院内資料と EBP 関連知識に限定して応答する設計としたこと、さらに 3 か月および 6 か月時点でも概ね使用が継続していることを説明しました。これらの議論を通じて、生成 AI を用いた教育支援は短期的な学習効果にとどまらず、継続的な自己学習環境の形成にも寄与する可能性が共有されました。

本学会で得られた知見と議論を踏まえ、今後は対象者数を増やした検証や、中長期的な教育効果および臨床実践への波及についてさらに検討していく予定です。

今回の学会発表と討議で得た経験を、今後の教育活動および研究に生かし、質の高いリハビリテーションの提供につなげていきたいと考えています。



 
JSPT E
ASSOCIATION OF WOUND
JSPT E 14

日本理学療法教育学会の未来

今こそ叡智を集約せよ

2026 1/10 (土)
/11 (日)

帝京平成大学
池袋キャンパス

学術大会長 芳野 純
準備委員長 吉本 真純

第14回
日本理学療法教育学会
学術大会